

湯の里に赤き紅葉は水に落ち

もみじ

やがて涌き出づ 白き霧嶋

令和四年十一月二十四日

大中正比呂



湯布院の塚原高原では湧水に紅葉が落ち、冬支度である。冬になれば、
温泉水は白雲と化して登り、その厚き霧の中に、塚の如き由布岳の岩が
島のように浮かぶ。而して、邑の神社は霧嶋神社と云う。

神社の杜は美しい。春は梅と桜、鶯が啼けば直ぐに螢か。

シロの黄色い花が咲けば夏が来る。紅葉が散りゆけば霜柱。

雪の夜は静かだ。白雪は、苔と落ち葉の地面を覆い、そして清める。